



お皿を一番多く割るのは 一番多くのお皿を洗っている人です

星野リゾート
情報システムグループ

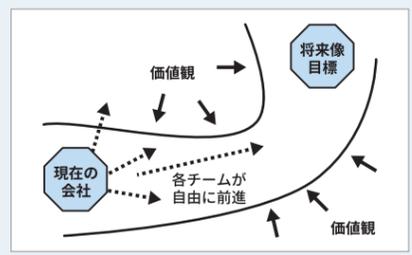
小竹 潤子

目指すのは
わかりやすく、
たのしく、使いやすい

既に活用しているアプリも含め、不要な部分や古くて今の運用にあっていない部分は常に改善を継続しています。
たとえば、kintoneのポータル。長い間文字だけだったのですが、アイコンを使ったデザインに変え、見た目もかわいく、導線も直感的にわかりやすく変更。利用者からも大変好評でした。今は星野リゾートっぽい雰囲気になるような改善を考えています。

ガードレールくらいが
ちょうどいい

全スタッフIT人材化を目指しており、社内でkintoneアプリ作成者を増やす取り組みを実施中。スタッフが「使いたい!」と思った時に、安心安全かつ自由に使える環境づくりを進めています。取り扱える情報の範囲を決めたり、アプリを管理する棚卸しアプリを作ったりしてガバナンスを整備しています。これらの取り組みは、ルールを固め過ぎてしまうとkintoneの良さが損なわれてしまうため、「この部分だけは守ってほしい」という線引きだけガードレールのように提示して、その範囲の中であれば自由にkintoneを使えますよ、という案内をしています。改めて振り返れば、星野リゾートの価値観と一緒だったので、私たちにすごく合っていました。



kintone歴
1年9ヶ月
(会社全体は約7年)

星のや軽井沢の現場スタッフを経て現在は、ユーザーサポートチームに所属。会社全体でkintoneを利用しており、経費申請から社内的人事異動管理、レストランサービスの進行管理まで様々な用途で使用。

kintoneは、すぐなくてもいい!
失敗しても挑戦できる!
アイデアが無限に広がる!
ワクワクする存在です。
アプリがリリースできた時は
夜ご飯にちょっといいお肉を
食べたりします!

大変なことはひとりではなく、 チームで乗り越えた

社内のワークフローシステムをkintoneに最速で置き換える、というプロジェクトは今までの中で一番大変でした。
全社で利用するため、クオリティや見た目にもこだわらなくてはならないにも関わらず、コロナ渦における会社の存続のため、経費削減が急務となり、当初一年の予定が3ヶ月(できるだけ早く)で置き換えることになったのです。
急なスケジュールによりエンジニアは不在。そんなプロジェクトに社内から新メンバーが追加され、kintoneの操作を学んでもらいながら一緒にアプリの構築を考え、gusuku Customineやコラボフローという新しい

ツールの習得、さらに300あるワークフローの断捨離をするために社内調整をし…。結果的にはチームメンバーを社内で固めたことにより、リリース後のメンテナンスや対応もすぐに行うことができました。軽微な不具合に関しては即時対応をし、差し戻しを行いたいなどの追加要望は、まとめて一ヶ月後に追加アップデートという形式で対応することができました。
これをきっかけに社内のスタッフがkintoneを活用する機会がぐんと増えました。大変ではあったのですが、認知度が上がり、また既存のkintoneアプリとも連携がしやすくなり、やってよかったと思っています!



kintone
オフィシャルパートナー
ジョイゾーの
四宮琴絵さん

センパイから学んだことは、次の世代へ

社内でまだまだkintone開発力が不足していたころ、ジョイゾーさんの「システム39」でお世話になったことがきっかけで様々なことを学ばせていただきました。
対面開発の手法や、伴走型のサポートなど、星野リゾートのkintoneを「現場の業務改善を支えるプラットフォーム」に成長させていくためのヒントを沢山いただきました。この春、ジョイゾーさんから学んだことを活かして、社内のシステム39制度を用意しました。スタッフの話聞きながらアプリ

と一緒に作り上げて、自分自身で業務改善ができるような仕組みを作りたいと思っています!
導入当初、久本さんは社員からさんざん「使づらい」と言われたそうですが、めげずにいろんな領域で試したり、興味を持ったスタッフを巻き込んだりしてくれました。久本さんのように人を巻き込み、安心安全自由に業務改善できるような場を整えらるよう、私も現在奮闘中です!

小竹さんの工夫はP.028でも紹介中!

星野リゾートへの
kintone導入、
全社展開の立役者で
私の上司でもある
久本さん



kintoneの センパイ 10人にクローズアップ

kintone管理者のセンパイ10人にクローズアップしました。

ひとりの管理者として、どのような想いでkintoneを運用しているのか、

どんな工夫をしているのか、大変だったこと、その乗り越え方、

センパイ10人のエピソードをたっぷりご紹介します。

センパイ10人とあなたの共通点を探してみてください。

活用のヒントになるでしょう。

悩んだときは、 まず行動してみる!

ひとり管理者から、 チームに

社内で「kintoneってあんなことやこんなこともできるらしい」という期待が高まっている状況から、私のkintone管理者としてのキャリアがはじまりました。私はシステム部に所属したことはなく、システムに関する知識もほとんどありませんでした。しかし、他に誰もやる人もいなかったため「私がやるしかない」と意を決しました。

運用開始してからもしばらくは、ひとり管理者。kintoneの公式ヘルプサイトなどを見て、専門用語やセキュリティ上の注意点を色々と調べながら進めていました。

どうしても分からないことは、社内のシステムを担当しているインフラサービス部へ相談したり、サイボウズに相談したりと、色々な方たちに助けいただき、乗り越えることができました。

そうしていくうちに「石渡が見つけたアプリすごいぞ」と評判がひろがり、社内の仲間が増え、今では4人体制のチームでkintoneのアプリ開発を行っています。

昭和リース
オペレーション企画管理部
石渡 真梨



kintone歴
1年6ヶ月

kintoneは工夫次第でやりたいことのほとんどを実現できる! 寝たらいやなことを忘れるタイプです(笑)

kintoneを活用した業務プロセスの構築や、運用管理を担当。kintone認定資格も取得。

中山さんは、1時間、他のメンバーで悩んでいたようなアプリの設定も、「こうすれば?」と3秒で解決してしまうこともある発想力の持ち主で、最後の岩的な存在です。

石渡さんの圧倒的なkintoneの知識量が、チームの柱になっていると思います。



上司の中山さん



kintone
チームメンバーの
吉田さん

吉田さんは、私の作ったアプリなどに対して、率直に思ったことをズバットと言ってくれるので、とても助かっています(笑)

石渡さんはチームのお母さんみたいな存在です。いい感じにチームをまとめてくれて、心の支えになっています。



kintone
チームメンバーの
亀田さん

アプリは、作る側だけの目線だけで設定してしまいがちですが、亀田さん、菅さんからは利用者目線で「もっとこうした方がいいんじゃない?」と改善案をもらえるので、視野が狭くならずすんでいます。



kintone
チームメンバーの
菅さん

個々の強みを 発揮しているアプリ開発

アプリ開発中にkintoneでやりたいことはイメージがついているのに、どう設定していいか悩む「開発沼」にはまったときや、アプリの構成、kintoneを活用した新しい業務プロセスを考えるとときには、kintoneチームに相談しています。

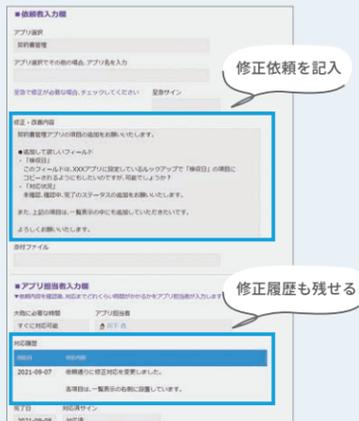
私以外のメンバーはkintoneアプリを利用したオペレーションを経験しているので、アプリの利用者目線と開発者目線の両方の視点を持っていて、アプリを見るとき目の動きや、入力のしやすさ、つまづきどころなども、指摘するだけでなく「こういった設定にしてみたら?」と具体的な対応策と一緒に考えてくれます。

メンバーの色や強みはそれぞれ全然違うのですが、そこを活かして1つのチームとして、上手くまとまっていると思います。

「便利になった」が うれしい

アプリに使いにくい点があった場合に修正依頼を受け付ける「修正・改善依頼アプリ」を作っています。運用開始した後も継続的に修正を繰り返すことで、より使いやすく、より業務効率化につながるアプリを目指しています。また修正履歴を残すことにもなるため、過去の修正の経緯や修正の理由を追うことができ、現在のアプリ開発者だけでなく、その後を引き継いだアプリ管理者にも役立つと思います。

アプリ利用者からの「こんなこともできる?」「助かった」「便利になった」「すごい!」などと言ってもらえるので、それがうれしいです。



修正依頼を記入

修正履歴も残せる

修正・改善依頼アプリ
※画像は利用イメージです

kintone × RPA で定型作業を自動化

kintone × RPAで審査業務の一部を行っています。RPA用のIDを発行し、指定の時間になると、RPAがkintoneにログインし、指定アプリの指定データのcsv書き出しを行います。その後、弊社の審査システムに入力し、審査結果を最初にかき出したcsvを入力し、kintoneへ再度読み込みを行い、審査結果をkintone内に登録しています。

データの読み込みだけではレコードの条件通知でRPAの業務完了通知を送ることができないので、「RPA更新情報」スレッドを立て、RPAの一連の業務が終わると、RPAがスレッドにコメントを書き込み、審査入力完了したことを通知しています。kintoneをRPAと連携することで、さらに効率アップすることができています。

システムのプロではなく、 業務改善のプロを目指す

現場や各部門を見渡した時に、紙の台帳を使った生産性の低い業務や、システムを使っていても複数のシステムやExcelに重複入力していたり、不要なデータを入力しなければいけない業務が点在していました。現場スタッフの負担だけでなく、お問合せをいただいたお客様への対応が遅れるなど様々な影響が見受けられました。私のチームはシステム開発の経験があるメンバーばかりではありませんでしたので、システムのプロではなく「業務改善のプロ」を目指そうと取り組んでいきました。

データの整合性が担保された 環境づくりを意識

誰でも簡単にアプリが作成できるkintoneだけに、きちんと整合性の取れたデータ、システムにしておくことを意識しています。簡単な例をあげると、全組織にkintoneが導入されていない場合などでは、各アプリで使う会社名や部署名などはきちんと統一されたマスターを参照するように徹底しています。個別のアプリ上にデータを持ってしまうと古い情報がそのまま残ってしまいがちで運用も大変です。データ不整合・重複入力の防止をするためにも**全体的なデータ管理をする人はしっかりと置いています。**

YOU, やっちゃんいよ!

感性AI株式会社
代表取締役社長 CEO
京王電鉄株式会社
デジタル戦略推進部

虻川 勝彦

ネガティブな意見も スピード感ある対応で 払しょく



kintone歴
7年3ヶ月

好きなものは、バイクツーリング、ワイン、いちごです。

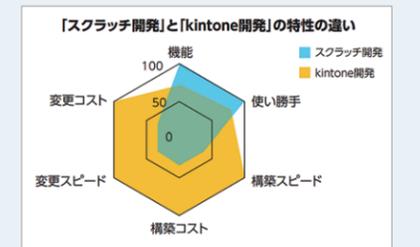
京王グループのDX推進を担当。また、CEOを務める感性AI株式会社では、感性をAIで可視化、活用するサービスを提供している。

kintoneコミュニティをみんなで活用して、個人・チーム・会社・社会を元気にいきましょう!

社内の会議でkintoneを紹介する場面では、「きんとうんだかなんだか知らんがそんなもの使いものになるのか!」といった声もありましたし、システム部内でも細かい設定ができない、帳票が見づらいなど機能的に十分ではない部分を指摘し「こんなこともできないのであれば採用したくない」とネガティブな声もありました。

確かにスクラッチ開発で時間とお金をかければいいものができるのは当然です。そこでkintoneで正直100点満点のシステムは目指せないとまずはっきりと説明しました。

その代わりに、デモを交えながら構築のスピードやコスト感、改修の迅速さなど、スクラッチの仕組みに比べて「オイシイ」部分をアピールしていききました。100点満点の仕組みではないものの、使えるものがすぐにでき、簡単に改修できるということをその場で見せていくことはとても効果がありました。



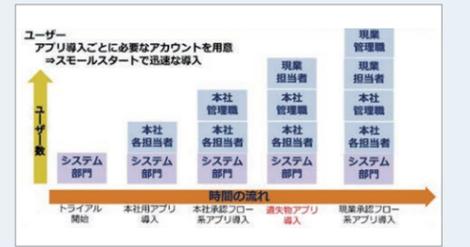
遺失物管理からはじまったkintone 今では京王グループ全体に

バスの遺失物管理アプリやバスの運転状況の評価する添乗評価アプリなどを利用する目的でkintoneを導入したのははじまりでした。

その後、簡単に業務アプリが作れることを紹介したことが契機となり、他部署やグループ会社の方からも「うちでもこういうのやりたいだよね」「今までメールだったものをkintoneでアプリ化して情報をしっかり管理したい」というご相談をいただく機会が増え、自社やグループ各社で「この仕組み、意外とよくない?」という話がじわじわと出てきて、kintoneがグループ内で増殖

していつているのです。

例えばグループ会社を統括する部署では、グループ各社の計画を取りまとめているのですが、以前は全てメールでやり取りをしていました。このコミュニケーション部分をkintoneに置き換えることで、情報が集めやすくなり確認もしやすい、かつ見たかどうかのログも残すことができます。グループ全体の業務のなかで、いわゆる必ずやらないといけない業務、つまり「キラーコンテンツ」をkintoneにて提供していくことが社内へkintoneを展開するときには有効ではないかと思っています。



「自ら学ぶ、そして感謝する」

を心がけています

浅野 京美

パーソルマーケティング株式会社
経営企画本部 事業企画統括部
事業企画部 事業企画課



kintone歴
1年4ヶ月

休日の過ごし方は、
少々渋いですが
散歩です(笑)

ひとりで成し遂げられない
仕事だから、わからないことは
素直に聞く、そして感謝する。
お互い気持ちよく仕事を
進められる関係を大事にしています。

管理者として、ユーザー・請求管理をはじめ、
アプリの作成や当社が受託している
プロジェクトでのkintone導入サポート
などを担当。

ユーザーの声か ヒントに 無限大の可能性に挑戦

アプリ作成においては、現場の入力工数を極力減らすことを心がけていますが、そのヒントはいつもユーザーの声の中にあります。たとえば、アプリの各入力項目にどんな情報を入力すればいいか(定義)がすぐにわかる仕組みを用意したきっかけもユーザーの声でした。

社内のユーザーの声に限らず、kintone hiveやCybozu Daysに参加すると、「こんなこともkintoneでできるの!?!」「当社が利用しているkintoneの活用範囲はまだ狭いけれど、拡大できる範囲は無限大なんだな」と、いつも強く思います。今後は無限大の可能性に挑戦して、プラグイン連携やJavaScriptも検討し、kintone+αでできることをもっと増やしていきたいと思っています。私にとってのkintoneは『無限大の可能性を秘めているプラットフォーム』です。

経営陣からのプレッシャー 上がらない日報入力率に苦勞...

導入当初は「運用できるの?」「営業に使いこなせるの?」といった不安・疑問の声を経営陣から多くもらっていたので、当時はとてもプレッシャーの中でアプリ開発や要件定義、入力促進を行っていました。日報の入力率はなかなか上がらず、現場への浸透が今まで一番大変でした。現場に向けて各部署の日報入力状況を共有して日々の入力推進を図ったり、電話で未

入力の理由をひとりずつヒアリングしていた事を今でも覚えています(笑)。「入力する事」がゴールではないのですが、入力がなければ蓄積される情報はゼロですし、どのような項目が入力しづらいのか?何が足りないのか?等の課題もこちらで把握できないので、まずは対ユーザーへの入力の徹底を行うことが最優先だと思い、できることは何でもやりました。

電話は履歴が残らない メールは埋もれる だから、kintone

ユーザーがkintoneを利用する上で何か困ったことがあれば、kintone上で問合せられるように「問合せ・依頼フォーム」アプリを作成して運用しています。電話だといつ何の問合せがあったか履歴が残らないのと、メールだと双方ともに埋もれてしまう可能性があるため、kintone上に問合せ履歴を残しつつ、アプリの通知機能を活用して、管理側でクイックに対応できるようにしています。

困った時のために
マニュアルや操作方法の動画を
アップしています!

「営業資料の金庫」 アプリが便利と好評!



2: 佐藤 昇
@飛松 生
今日はお疲れ様でした。
引き続き業務の引き継ぎしっかり
お願いします!

1: 田中 聡
@加藤 美咲
案件受注おめでとうございます!
オプション提案もこの調子で
よろしくお願いたします!

2: 田中 聡
@川下 杏 @田中 聡
スタッフさんの採用が決まって
よかったですね!
お疲れ様でした!

現場への浸透はとても大変でしたが、ユーザーである現場の方々の協力のおかげで乗り越えられたと思っています。部門責任者が入力率を日々確認して「みんな日報入力した?」と声掛けてくれたり、メンバーが入力した日報に対してこまめにコメントをしてくれたり、メンバーが「入力しよう」「入力しなきゃ!」と思える雰囲気づくりをしてくださったので、本当に感謝しています。

今では営業部内でkintoneを利用する事例が増えてきて、他部門からも「kintoneでこんなことってできるの?」という相談やアプリの作成依頼が増えてきました。少しずつではありますが、kintoneに関心のある方が増えてきているのを日々感じています。

スタートアップ企業にとって最高のシステム

kintoneを導入して一番うれしかったことは、目に見えて業務が効率化されていったことです!以前はスプレッドシートにあるデータをExcelファイルに移したり、チャット内の情報とExcelのデータを照らし合わせて不備がないか確認したりと、非効率な部分が多く苦勞していたのです。今回弊社でkintoneを導入して確信しました。kintoneはスタートアップ企業が最初に導入するシステムとしてこれ以上のものはないと思います!基幹システム同等、それ以上のポテンシャルもあると思います。

スタートアップ企業はとくに、仕事の流れやデータ管理の方法が変わることがよくあり、それに伴うシステム変更の必要性も発生すると思います。kintoneなら、会社が新しい事業に大きく舵を取ったときも、大幅な修正も短期間でできますしkintoneなら振り落とされることなく食らいついてこれることを実感しています。毎月の継続費は安価で、弊社で高くついているのは人件費くらいです(笑)。

プラグインは 惜しみなく使う

アプリを作成する際に工夫していることは、フローを最小限に抑えること。必要であればプラグインを惜しまず使っています。フローが増えればヒューマンエラーも増えます。プラグインによって、自動入力での入力の手間を減らしたり、データの条件によって必須項目を変更するなど、仕組みで解決できる部分を増やしています。シンプルなフローは社内浸透にも効果的です!

連携サービスを フル活用

弊社事業では複数のメーカー様から商品卸していただいておりますが、商品ごとの単価は毎月変動し、売上発生タイミングも異なるため、売上計算がかなり複雑です。ですが、これをkrewDataを使ってすべて自動化できています。他にも、kViewerやフォームブリッジを駆使することで、営業担当別に活動報告や対応依頼、売上確認が可能な「マイページ」を用意できています。プラグインだけでなく、連携サービスもフル活用中です。

逃げるな。

挑戦し続ける!

株式会社Road
CX事業部

須釜 秀輔



kintone歴
8ヶ月

スタートアップ企業にとって
kintoneは、
既存の基幹システムに下剋上を
起こせる存在なのではないかと
思います(笑)

メイン事業である営業代行
事業の案件管理から売上管理、
資材管理まで幅広い業務
で利用中。
すべてのチームでkintone
を活用している。

容赦ないダメ出しから 生まれた思い出の 売上管理アプリ

kintoneの始まりは1年前の8月初。宮城常務に「kintoneの導入が決まったから明日からよろしく。何ができるか調べ」と言われたことからでした。最初に作ったのがフォームブリッジを使ってお客様の情報を登録するWebフォームとアプリでしたが、完成したのを見た宮城常務からは容赦のないダメ出し...作ってはダメ出し...修正しては追加の要望を頂く日々でした。そんな日々を過ごして12月。やっとの想いで売上管理アプリが完成しました。宮城常務からの叱咤激励があったからこそ短期間でkintoneを形にできたのではないかと思います。アプリ完成後、宮城常務に「頑張ったな」と連れていってもらった高い焼肉の味はいい思い出です。

上司で
常務執行役員の
宮城さん



プログラミングができる 後輩の登場で 社内浸透が加速

kintone導入後3ヶ月、社内に浸透してきた頃に、金子さんと島津さんの二人が配属されました。二人は自分にはないプログラミング知識があり、JavaScriptやCSSを使ってアプリやフォームブリッジのカスタマイズを行ってくれています。今まで手を出せていなかった見た目の改良やちょっとした機能拡張によって、細かいところまで手が届くようになり、さらに使いやすくなり便利になりました。ふたりのおかげで、社内でkintoneが浸透するスピードが加速しています。kintoneと私を支えてくれる、なくてはならない存在です。



後輩の
金子さん



後輩の
島津さん

情シス不在の 普通の中小製造業 でもできた

当社には情シス担当者はいません。中小企業の中でもソフトウェアの利用は後進企業であったと思います。しかし、kintoneは低コストで簡単、文系営業マンの私でも自社に合ったアプリを構築でき、今では30のアカウントで、40以上のアプリが使われ、毎月3,200回以上レコードが追加されるデータベースになり、経営者としても会社の今がデータから読み取れる、なくてはならないツールとなりました。kintoneだけですべてを解決できるわけではありませんが、kintoneを導入していなければ解決していなかった問題も多かったと思います。

妻がいなければ、kintoneは諦めてました

妻の佐貴子は、私の半年後に入社。修理・点検の事務を担当しています。入社すぐに、初めて触るkintoneを理解し、(私も使ったことがなかった)プロセス管理機能を用いた「修理管理アプリ」を作成しました。このアプリがすごかったです。アプリ導入後、業務の抜け・漏れが減り、過去データを元にした定期点検の案内件数が増えたことで、修理・点検の業績が上がります。目に見える成果が出たことで、kintoneの社内評価も上がり、他部署への展開につながりました。妻の活躍はこれだけではありません。70年以上続く当社の納入実績は、エクセルで保管している30年分だけでも7,000件以上あります。また、初期に作った私のミスでCSVの

一括入力ができないデータがありました。妻は、ルックアップの取得ボタンを1件1件すべて手押しし、全件のデータを入れてくれました。これがなければこの時点でkintoneの全面導入を諦めていたかもしれません。この時、kintoneを使うために必要なのは、特別な知識やスキルではなく「組織を良くしたい」という強い思いだと感じました。

息子は第1子0歳
公園で遊ぶのが好き



こどもの未来のため、 胸を張れる仕事がしたい

三田理化工業株式会社
専務取締役

千種 純



kintone歴
3年10ヶ月

私は、典型的な文系営業マン。技術のことはまったくわかっていませんが、創業70年の歴史を一つ一つ学びながら、新しい価値を生み出すために、日々を過ごしております。

義理の父の会社で創業70年の医療機器製造業、従業員数45名の会社。将来アトツギ社長になる予定。人・顧客・案件など、資産として計上されない社内情報など、kintoneを全社的に利用中。

「すごい便利、ありがとう」 がうれしかった

kintoneを使い始めてしばらくして、社員から「kintoneで機器の管理ってできる?」と相談されました。製造に使用する計測機器は定期的に校正・点検を行う必要がありますが、あまり使用しない機器の点検をたまに忘れてしまいます。そこで、kintoneアプリを作り、校正時期が近づくと通知してくれるアプリを作ったところ、「すごい便利、ありがとう」と言ってもらえました。社員の方から感謝を示されることはあまり無いので、とても嬉しかったことを覚えています。そのほかにも、kintoneを通じてデータベース、ルックアップ、IF関数を学び、その新たなスキルで作ったツールの導入効果を実感できていることや、kintoneがきっかけで知り合いができ、自分の世界が広がっていると実感できることなど、kintoneを導入してから楽しいことが多いです。

ポータルはカスタマイズして、よく使うアプリへの導線をわかりやすくしました!



使いやすさ、親しみ、そして多少の強制力

データベースであるkintoneは情報が継続してインプットされなければメリットがなかなか見えてきません。ITスキルがバラバラの社員全員に、慣れているエクセルからkintoneに移行してもらうわけですから、少しでもkintoneを使いやすくしたいと思いました。「使いやすさ」を意識してポータルはカスタマイズしています。アイコンを大きくしたり、導線をシンプルにしたり、入力するアプリを探す手間を省けるようにしました。また「親しみ」を覚えてもらうためにパステルカラーを多用したデザインにしましたが、

これは「一昔前のサイトみたい」と言われてしまい、少し落ち込んでいます(笑)。そして、多少の「強制力」も必要でした。「使ってみてね」だけではなかなか使ってもらえないことを経験したので、業務が楽になること、見える化のメリットを伝えつつも、最後は少し強制的に日常業務に組み込みました。その結果、今では多くのデータが入力されていますが、まだまだ道半ばです。これからもkintoneを用いて、経営理念であるお客様の課題を解決し、社会に貢献する組織を目指します。



kintone歴
5ヶ月

レストラン現場勤務を経て、現在は人事として採用や労務を担当。会社の全メンバーでkintoneを利用しており、店舗ごとやチームによって様々なスペースを作り活用中。

そうしけんしん 「走姿顕心」 好機は全力疾走した人にだけ 与えられるもの

TANPAC株式会社
人事部

中上 歩

犬とあそぶのが大好き。
週末は夫と一緒に
ドックランに
出かけてます。

kintoneは、
かゆいところに手が届く
便利屋さん。
「こんなのがあったらいいな〜」を
だいたい解決してくれています。

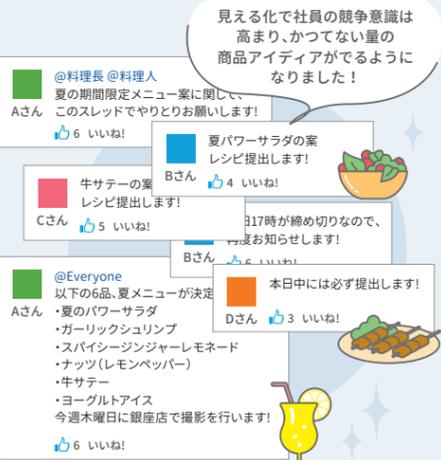
カロリー管理で レシピ開発が ストレスフリーに!

弊社が運営している筋肉食堂の料理人にとって「カロリー」は大きな壁です。味は美味しいけどカロリーが高すぎてボツ…はよくある話。そこで、開発した料理を社内の栄養士に提出し、栄養士がタンパク質やカロリーなどの成分を入力して開発者にフィードバックできるアプリをkintoneで新しく用意しました。kintone導入以前はバラバラのフォーマットやツールで栄養士に提出しており、せっかく作ったレシピがうまく活用されないこともあったのですが、kintoneのおかげでそんな問題は解決!入力方法が統一され、進捗状況もわかりやすい。お互いにストレスが減りました。情報を集約できているので、新人の栄養士への仕事の引き継ぎもノーストレスです!

スペースで料理人が料理開発に 集中できるようになりました

弊社には「商品開発部」がありません。筋肉食堂のメニューは、若手からベテランまでどのスタッフでも手を挙げて商品案を出すことができる環境です。kintone導入前はその環境の自由さがゆえに、管理が煩雑で苦勞もしていました。「どこで誰が新しいレシピを共有したかわからない」「開発に関して何がどこまで進んでいるのか分からない」「フォーマットが統一されていないから商品案が伝わりにくい」など様々な問題が発生していたのです。そんな状況では、料理人も「美味しい料理を作ること」に集中し切れません。

そこで私はkintoneに商品開発専用スペースを作成しました。新商品採用の経緯や進捗を見る化することができ、共有漏れは格段に減りました。組織の透明性が上がり料理人たちの納得感も増しました。そして、レシピもスペースに保管されているので誰もが迷うことなくアクセスできます。「余計な雑務を無くし、それぞれのポジションごとの役割に集中してほしい」という想いから導入したkintone。今ではメンバーから「仕事がしやすくなった」「共有事項がわかりやすくなった」「オンとオフが切り替えやすくなった」という声をもらえています。うれしい!



若手メンバーの がんばりが 先輩メンバーの プレッシャーに

kintoneはあえて若手メンバーに積極的に利用してもらうようにしています。若手メンバーが上手に使いこなしている以上、先輩メンバーも覚えなければならぬので程よいプレッシャーになるんです。社長からの定期的なメッセージも効果的です。社員に会社全体でkintoneに移行する雰囲気を感じてもらえるようにしています。

スポーツトレーナー時代からの先輩は 現場浸透をがんばるkintoneトレーナーに?!



前職の先輩・谷川さん。
筋肉食堂の創業時に
誘ってもらい一緒に
働いてる。

私含め社内で2名しかいないバックオフィスメンバーの福田さんと、スポーツトレーナー時代からの先輩であり今の会社に誘ってくれた谷川さんとチームで力をあわせて日々奮闘しています。私がアプリの作り込みや運用方法を考え、福田さんが「アプリの設定合ってるのか?」「公開範囲間違っていないか?」と設定を確認、谷川さんが現場メンバーに直接操作方法を教える、といった感じで、役割分担ができています。

愛犬と過ごせる時間を増やしたい

今野 愛菜

相互電業株式会社
管理部

茶々丸

犬種：柴犬
色：クリーム
体重：7kg
趣味：散歩
日向ぼっこ



茶々丸と
過ごす時間をふやしたく、
在宅勤務するため
kintoneを導入しました。

kintone歴
2年5ヶ月

愛菜ちゃんと
過ごせる時間が
ふえて幸せだワン

IT担当未経験ながら、茶々丸と一緒に過ごす時間を増やすべく、在宅勤務ができる環境を整えようとkintoneを導入。様々な苦難を乗り越え、現在は全社的な業務改善が進み、在宅勤務もできるように。

私はひたすら伴走者 決めるのは“現場”

経営層の方々はとくに、日頃から“なりたい姿”についてよく考えているため、現場での改善スピードが遅く感じてしまうことがあります。しかし、現場のことを一番知っているのも、実際にシステムを使うのも、改善した業務フローを行うのも現場の方です。だから私は、トップダウンではなく、現場に決めてもらうための工夫をしています。紙、Excel、kintone、他システムの長所短所をあげるのには、私、決めるのは現場です。

全員で改善に向けたワークショップを行ったり、社長と部門代表とkintone担当の私が集まって話を進めていく「業務改善ざつだん会」で改善を進めたり。毎日少しずつ変化させながら、みんなで業務改善に取り組んでいます！現場が納得できる形の意味決定ができるべく、共通認識をもつこと、同じシーンを思い浮かべられるまで具体的に話せるように意識しています。

犬好きメンバーで 行う業務は、 犬アイコン

ちょっとした工夫で
仕事のテンションが
あがります♪



“呼びかける”から“聞く”ことに

kintone導入が大成功しkintoneの凄さを知った私は、何でもkintoneにしようとしてしまいました。みんなの残業が減り、自由に働ける未来が見えたので、どんどんアプリを作りみんなに声をかけました。でも、使われない。なんで使ってもらえないのか分からず、現場を質問攻めにし、やってみようよ、と呼びかけました。次第に同僚との休憩時間の雑談などが減り、雰囲気が変わっていくのを感じ、あれ…私のやってることって何か違うのかも気がつきました。

そこから“呼びかける”から“聞く”ことにしてみました。現場からは「たしかにその業務は課題ではあるけど、今解決したいことではない」と。実際にアプリを使うと「このアプリのままでは現場では使えない」と。同じ課題でも、思い描く理想が違うとすれ違ってしまい、理想の景色が違うことに気づいたエピソードです。

たくさんの人に支えられています！



板倉社長、部長の宮武さん

kintone発見時～導入、さらに現在の運用に至るまで一緒に進めています。理想を決めたり、大枠の流れを決めたり、3人でよく話し合い全体へなげかけています。良かったこと、改善点なども共有しあう業務改善の運営を行っています。



管理部の上司
山口さん

失敗したり落ち込んだ時によく話を聞いていただき助かりました。また、連携サービスの設定がうまくいった時も一緒に喜んでいただけ嬉しかったです。



同じ相互電業のメンバー

「自分たちがどうなっていきたいから、こうkintoneを使いたい」と提案してくれるようになってきており、とてもすごいです。



kintone境界の仲間たち

「Twitter」「kintone Café」でシステム開発の悩みや実現の仕方を共有できました。つまりいてしまった時も、アドバイスや話を聞いて受け止めて頂いて、この場所がなければ続ける事はできませんでした。特に、考え方や構築の基本となったのは、小林さん(@ShinyaKoba1979)、矢内さん(@ty_mgtokintone)。人の想いを一番kintoneで表現している清水さん(@swictsolu)。また、Twitterで最初の仲間になって頂いた安藤さん(@imarobot_99)は、今もずっとDMで支えて頂いています。感謝です。

同じやり方で、 違う結果は得られない

「業務改善は自部門で考えて行う大切な主業務である」という考えを浸透させたいと思い運用していました。自由に開発を認めて作りっぱなしの野良アプリがまん延したらどうしよう、管理者不在で保守できず、結局システム部門に丸投げされたらどうしようと不安にもなりました。かといって、それを避けるために開発できる人を絞ってしまっただけでも変わらない。結局一部の開発者へ負荷集中してしまっただけで「ITを使った業務改善はシステム部門の仕事、システム部門は本業が忙しいので対応できない」という状態を変えることはできない。「いままでと同じやり方で、今までと違う結果は得られない」そこを挑戦し工夫しました。

kintoneを推進するも 1年間は鳴かず飛ばず

kintoneを社内で推進するも1年間鳴かず飛ばずでしたが、コロナの影響で急きょテレワークが始まりました。各部署がメールやLINEでの在宅勤務管理を模索するなか、私の部署はkintoneでやってみようかと1日でアプリを作成、翌日から運用開始。これが思いのほかうまくいって、報告書作成や集計作業にも活躍。kintone社内展開へのきっかけとなりました。結果的には「運がよかった」のかもしれませんが、しいていうならkintone不遇の時代にもあきらめず、地道にkintoneの機能把握や下準備をしていた事が、チャンスを掴むことになりました。

「努力は夢中になかなわない」 私はkintoneに夢中です

で、タイミングよく アプリにコメントする

たとえば「こんなアプリを作ってほしい」とExcelでイメージ図を作ってきたユーザーがいました。まずは「いいですねー」と褒めます。そして「じゃちょっと今からkintoneでやってみましょう」と切り出します。アプリ開発画面を開きながら、フィールドを配置して、あでもないこうでもない作業を小一時間もすると「ほら、もうできてますよ」と。すると、次からそのユーザーは、Excelではなく最初からkintoneでアプリを作れるように。ときどきそのアプリをのぞいて、で、タイミングよくアプリに「いいですねー」とコメントするのです。作り始めると色々な疑問や質問がくるのですが、みなさん遠慮してなかなか質問をくれません。そこへ自分のアプリにコメントが入ると、あふれるようにレスポンスが帰ってくるのです。最後は「今からそっちに行きますので一緒に作りましょう」となったりするのですが。「人は変わりたくないわけではない。変えられたくない。」これにつきまます。

西村 志郎



kintone歴
2年

趣味は、サッカー、野球、
マラソン、陸上短距離など、
体を動かすのが大好き

はたしてkintoneは仕事なのか、
趣味なのか、努力したのか。
一つ言えるのは、仕事で出会った
kintoneに夢中になっている、
ということです。

営業の業務改革のプロジェクトのひとつでkintoneを導入。はじめの1年はひとりだったが、その後社内で活動が認められ、今ではシステム部門や生産部門とも協力して、全社展開している。

kintoneでたくさんの仲間と 出会えたことがうれしい

私はたくさんのkintoneコミュニティ仲間を支えられています。その中のひとりがHazimeさんです。「キンゴミ」をきっかけに仲良くなりました。Hazimeさんは技術志向が高いことに加え、利用者目線でものごとをみることができ、彼のブログは高度なこともわかりやすく丁寧に解説していて私も参考にしています。趣味趣向や物事の考え方も一致する部分が多く、書籍「暗号技術入門」「数学ガール」で盛り上がり、「ガンブラ」の話題で盛り上がり。kintone境界で色々支えていただいている大切な仲間のひとりで。



私はコミュニティに 助けられた

もしあなたが、kintoneがうまく活用できないと思っているなら、それは「kintoneの料理の仕方」になれていないだけ。大丈夫です、おいしく料理するノウハウは十分にたまってます。ひとりで悩まずに、勇気をもってコミュニティに飛び込んでみてください。「キンゴミ」をはじめとしたkintoneコミュニティには、自分の利害とは関係なく親切に手助けしてくれる人がたくさんいます。その方たちも、その前にコミュニティに助けられた人たちなのではないかと思うのです。「今度は自分が助ける番」、私はそういう思いでコミュニティに参加して、そしてまた今でもたくさん助けられています。

業務改善の根底は

「エンパワメント」

怒らない
あきれない
見捨てない

医療法人陽仁会
医療連携室

清水 信貴

kintoneを一言で表すならば「エンパワメントツール」です。作業をこなすだけだった人間が、自分で課題を解決するようになっていく。これは物凄いいことだと私は思います。

現場にシステムを浸透させるうえで私が心掛けていることが3つ。それは「怒らないこと」「あきれないこと」そして「見捨てないこと」。システムを使うのに不慣れな人に対して「いい加減使い方覚えてください！」なんて怒るものなら、もう相手は委縮してしまいます。「またですか…何回同じこと言わせるんですか…」なんてあきれようものなら、相手のプライドは傷つきます。また、「(もうこの人がシステムを使うのは無理だな…何も言うまい)」など見捨てようものなら、相手は失望してしまいます。結果、誰も何も言えないシステムになり、業務効率化…おしまい…。そうならないように、私は常にユーザーに寄り添うことをやめません。



kintone歴
4年4ヶ月

病気や障がいで病院に通院することが難しくなった方に提供する「訪問診療(医師がご自宅に伺う診療スタイル)」のマネジメントや、法人内にてICTを活用した業務整理、業務改善などを担当。

相手に合わせて スピードを変える あえて不完全にする

kintoneはスピード開発が特徴です。作ろうと思えばササっと作り上げる事もできる。ただし、kintoneという仕組みに相手がついてこれていないと感じたら、あえて完成までの時間を遅らせたりします。スピード感が求められる時は一瞬で開発し、相手がついてこれていないと感じたら遅らせる。開発スピードを調整できるのが「スピード開発」の意味だと捉えています。また、開発を担えそうな職員と仕事をする時は、後で必要になりそうなフィールドや一覧機能を作らずに、あえて不完全にします。その状態で本番運用を行い、相手の気付き主導で解決に向けた開発を一緒に行っていきます。作る喜び・解決する喜びを独り占めしない事が大事だと思っています。

完成品と勘違いして「使えないシステムだな」で終わってしまわぬように、必ず「これは完成品ではない。みんなの意見を聞きながら、作り続けて完成に近づけていくものです」と付け加えるのを忘れないようにしましょう！

みんなの仕事を 「楽に」する活動が 「楽しい」に繋がった

kintone運用をしていく中で私を支えてくれた仲間とのエピソードは数え切れません。たくさんありますが、ある日後輩に「kintoneやるようになってから、仕事がスゲー楽しいっす!」と言われたことがありました。その当時、私はみんなの仕事を「楽に」しようと活動していたのですが、「楽に」が誰かの「楽しい」に繋がっていたと気付いたときは、とてもグッときましたね。

奈良雅代さんは、いちばんkintoneの使用歴の長いスタッフです。一步一步改善していく様を見守ってくれています。

鈴木一滋さんは、一緒にデイサービスでのkintone開発を成し遂げたパートナー。今では介護医療院での開発をひとりで推し進める心強い存在。

藤野綾子さんは、主にkintoneを使う側のスタッフですが、前向きにいろんな提案をしてくれて後押ししてくれた大事なメンバーです。

松丸真理子さんは、もともとICTが苦手でしたが、kintone導入を境に、今や電子カルテ、コミュニケーションツール、kintoneを操るICT人間です。

キーボードが打てない 看護師さんも取り残さない

実際に使っている
“スペシャル”テンキー

デイサービスにkintoneを導入した時、看護師さんから反発がありました。なぜなら看護師さんはキーボードが打てなかったのです。そこで、入力デバイスをキーボードからテンキーにする事で看護師さんが問題なく、いや、kintoneを活用することで、これまで以上に効率的に仕事ができるようにしました。スタンプには「お休みの件、承知致しました」「趣味活動申し込み用紙お預かり致しました」「書類お預かり致しました」などフレーズが割り当てられており、クリックするだけでデータ入力が可能です。これは業務効率化の話というよりは、システムが人を疎外することなく、これまで通り「続けられた」物語だと思っています。

